

## 文教厚生常任委員会行政視察研修報告書

文教厚生常任委員会では、令和元年 11 月 20 日～22 日にかけて、山口県宇部市、周南市、防府市にて視察研修調査を行いました。

参加者は、委員長の福田克之の他、高瀬一徳副委員長、石原孝明委員、石岡祐二委員、角田憲治委員、小堀勇人委員、所管課職員として、高野高齢課長、早田生涯学習課長が同行し、竹内浩之議事課長が随行いたしました。

最初の視察先、宇部市では「ご近所福祉サロン推進事業」について、翌日訪問した周南市では「徳山駅前賑わい交流施設」について、また防府市を訪問し、「幸せます健康くらぶ事業」についてそれぞれ視察しました。

### 山口県宇部市

#### ○「ご近所福祉サロン推進事業」について

11月20日は山口県宇部市役所を訪問しました。

宇部市は面積286.65平方km、人口166,847人、県西南部、瀬戸内海に面する県内有数の工業都市です。明治期以降の石炭産業の隆盛により栄え、戦後は素材供給型化学工業を中心とする臨海工業都市へと変化しました。その過程で生じた公害や環境問題を克服し、現在は環境共生都市として世界的に知られています。1961年開始の野外彫刻展が隔年で開催され、彫刻のあるまちづくりの先進モデルになっています。

宇部市では、ご近所福祉サロン(東割ともだちの輪)を訪問し、現場での運営方法や関係機関との連携や今後について学びました。

現在、宇部市の高齢化率は33%で、地域によっては50%近いところもあり、現在の市長が選挙公約で「明るく安全安心に暮らせるまちづくり」のひとつとして、介護予防に取り組んだ。

平成25年度から市の単独事業で、①拠点整備重視型(事業開始するための初年度整備を行なうもの)②活動内容充実型(一定の基盤を有した団体に3年間運営を行なうもの)③ステップアップ支援型(更なる活動を充実を図るもの)ふるさと応援基金を財源として10/10で実施しました。

その後、市民に分かりやすく、社会福祉協議会に委託した市内サロン事業の窓口を

一本化しました。

現在、市内に26箇所(18校区)設け、「生きがい対策」「なかまづくり」「介護予防・健康増進」の三本柱で実施しています。特に、自治会長(行政区長)、民生委員の他に宇部市独自の役職「福祉委員」を配置してきめ細かな対応、地元子ども会や介護事業者をはじめ、各サロン事業者との情報共有情報交換を行なっている。

今後は、新たな担い手の発掘や、より一層、子どもと障がい者など年齢や障がいの有無に関わらず集える場所にしたいとのことでした。

さくら市においても、各機関との連携など大変参考になった。

### 山口県宇部市 研修風景



### 山口県周南市

#### ○「徳山駅前賑わい交流施設」について

11月21日は、山口県周南市役所を訪問しました。

周南市は、面積656.29平方km、人口145,188人、県の中央に位置し、北部は中国山地で島根県と接し、南部は瀬戸内海を臨みます。2003年に徳山市と新南陽市ほか2町が合併。国際拠点港湾・国際バルク戦略港湾である徳山下松港を擁し、海岸線に沿って石油化学コンビナートが並ぶ西日本有数の工業都市として発展しました。コンビナートから発生する水素をまちづくりに活用する取り組みを推進しています。

周南市では、賑わい交流施設を訪問し、現場の運営方法や関係機関との連携や今

後について学びました。

JR 徳山駅ビル跡地に図書館を核とした3階建ての賑わい交流施設を整備し、整備にあたり、市民や大学教授でデザイン会議を実施して昨年オープンしました。

事業費には起債、国土交通省の社会資本整備総合交付金、山口県の予算を使用している。

1階にはスターバックスコーヒーやフルーツパーラー、蔦屋書店、2階にはキッズライブラリーや図書館、地元ブランド品の酒や醤油の販売コーナー、3階には市民活動支援センターがあり、魅力ある施設になっている。

駅前を含め、市内には5つの図書館があるが、民間委託図書館は「今を知り、広く、知を楽しむ図書館」市直営図書館は「過去に学び、深く詳しく知を深める図書館」と、それぞれの役割がありライフスタイルに応じて、市民は使い方を分けているとのことでした。

また、民間の図書館においては飲食をしながら本を読めるので、誤ってこぼして本を汚しても新たな本と交換して対応する。まずは本を手にとりいただき、利用していただき稼働率アップをしたいとのことでした。

今後は、まもなく新幹線駅側の開発整備が終了するので、さらなる街中との回遊性を持たせたいとのことでした。

さくら市においても、特に民間活用の面で大変参考になった。

## 山口県周南市 研修風景



## 山口県防府市

### ○「幸せます健康くらぶ事業」について

11月21日は、山口県防府市役所を訪問しました。

防府市は、面積 189.37km、人口 116,665 人、県中央南部に位置し、瀬戸内海に面し、佐波川下流に県内最大の平野が広がっています。市内北部は古くから防府天満宮の門前町として賑わい、南部は17世紀後半から始まった製塩業で栄えました。1960年代からは塩田跡地に企業誘致を進め、マツダ防府工場を拠点とする輸送機器関連メーカーが集積し、県内有数の製造品出荷額を誇る産業都市となっています。

防府市では、全国各地で講演活動を行なっている市の担当者による事業の運営方法や関係機関との連携や今後について学びました。

「幸せます」というキャッチフレーズは市の様々な事業で使われており、健康くらぶ事業では厚生労働省の「健康寿命のばそうアワード優良賞」を受賞している。

この事業は、日常生活支援総合サービスを組み合わせた防府市独自の介護予防と生活(買物)支援を一体的に提供するサービスで、単に事業者(社会福祉協議会など)に燃料代を払うしくみである。書類作成手続きなどが複雑なことから各地で行なわれておらず、全国に先駆けたこともあり注目をされている。

担当者の姿勢は、まず市民や事業者のニーズを把握して、制度設計を行ない、無ければつくり国(各省庁)に提案し補助金を取得し、国とも良好な関係を築き定期的な情報交換をしているとのことでした。

現場においても、介護予防・自立支援を効果的に行なうため、多職種が知恵を出し合い、多職種間の専門性の技術移転を起こすための、自立支援会議(幸せます会議)を実施している。

今後は、職員と市民がより一層一体となって、超高齢社会の問題にいかに取り組むかとのことでした。

さくら市においても、新たな制度設計や国への提案など参考になった。

## 山口県防府市 研修風景



全体を通して視察先の人口は16万人台で、平成の大合併後から人口減少になっている。

しかし、子育て施策については、全国でもトップランナーとして実行しており、説明をいただいた職員、議員、働いている現場スタッフも自信に満ちあふれていました。

特に、視察先全ての市長自ら選挙公約の重点施策になっており、政策に対する強い思いが伝わってきました。

もちろん、議会も議員もそれを厳しくチェックし議論を深めているとのことでした。

令和元年、さくら市は首都圏から近く環境も充実しており人口が微増ではあるが、それに甘えることなく、より良い地域づくり、まちづくり、赤ちゃんから子育て世代から高齢者まで、住みよい環境づくりのためにしっかり取り組んで参ります。

以上、ご報告いたします。